

北海道へ足かけ10日間 夫婦タンデムツーリング

1993年4月27日～5月7日 発売：1993年10月1日

著作：八重洲出版「モーターサイクリスト」

今年のGWは、夫婦とも8日間の休暇が取れた。このチャンスを逃すと絶対に後悔すると思い、足かけ10日間、全走行距離2,600kmに及ぶ北海道タンデムツーリングにチャレンジする決心をした。マシンはFUSIONの逆輸入車・HELIX。2人分の荷物がトランクに収まる便利な250ccスクーターだ。



毎年、GWの時期には夫婦でタンデムツーリングに出かけており、東京以西はほぼ走り回ってきた（ちなみにふたりは結婚9年目のDINKS）。けれども、社会人では北海道は日程的に無理だ、とあきらめていただけに、ついに巡ってきたこのチャンスに心が弾んだ。

【4月27日】

仕事を終えてあわただしく帰宅。荷物と妻を積み込み(!?)新門司港へ向かう。21時発の神戸行き阪九フェリーに飛び乗ると、乗客はまばらだ。2等（いわゆるザコ寝）だが、広々とスペースを確保でき、寝台よりもかえって楽である。遅い夕食を取り、9日後に無事帰ってこられることを願いながら就寝。 <本日の走行 70 km>

【4月28日】

10時に神戸・六甲アイランドに到着。天候は曇り。今日は22時までに舞鶴港に着けばよいと、姫路～鳥取経由のプランを立てていたが、雲行きがだんだん怪しくなり、姫路市に入るとついに雨が……。鳥取はあきらめて、休憩を多めに取りながら直接舞鶴へ向かうことにする。雨に加えて、妻が退屈して後席でコックリしだした（背もたれがあるので落ちないですむ）ので、ときどき起こしてやる必要もあり、かなり気疲れする運転となった。19時、舞鶴着。小樽行き新日本海フェリーの乗客はわりに多いが、ライダーが意外に少ない。この時期、北海道はまだ寒いとはいえ、少々不安でもある。23時30分、出航、雨のなかを1日走った疲れからか、すぐに夢の中へ。 <本日の走行 260km>

【4月29日】

朝8時に目が覚める。今日は1日フェリーの中なのだ。元来、じっとしているのが嫌な性格なので、さぞかし退屈するだろうと覚悟を決めていたが、さにあらず。映画も見られるラウンジあり、スポーツジムありで、船旅に飽きない気配りが施されている。

まずはコインランドリーで、濡れたグラブ類を乾かす。これで北海道を気分よく走れると

いうものだ。デッキに出てみると、昨日の雨がウソのような日本晴れ。360度の水平線が、地球は丸いことを改めて実感させてくれる。午後はデッキでひなたぼっこを楽しむ。心地よい風と光をいっぱい浴びながら、何も考えることなく、ただ時間だけが過ぎていく。これぞ船旅のだいご味。なんとも贅沢なひとときだ。

夕食前に卓球でひと汗流す。窓からは海も見えるし、大海原に沈む夕陽も圧巻で、なかなかリゾート気分を盛り上げてくれる。そんなこんなで思ったより早く1日が過ぎた。明日はあこがれの北海道に上陸だ。 <本日の走行 0km>



【4月30日】

早朝3時に起床。いよいよ30時間の船旅も終わろうとしている。荷物をまとめ、防寒のためスキーウェアに身を固めると、徐々に興奮も高まってくる。予定より30分ほど遅れて4時30分に小樽入港。薄暗いなか、目を凝らすと、山は一面雪化粧。道路は大丈夫なのか？ 雪を見慣れていない九州人の不安が走るが、ここまで来たらやるしかない。今日は650kmに及ぶ長旅になる。油断は禁物。日暮れまでに旭川に着けるよう祈りつつ、北海道に第1歩を踏み出した。

まずは腹ごしらえ、とJR銭函駅へ。妻は小樽市内もゆっくり見たかったようだが、最北端の宗谷岬をあきらめるわけにもいかず先を急ぐ。走り出すと、スキーウェアの重装備とはいえ、九川育ちのふたりにとっては真冬同然の寒さ。同じ日本でこうも違うものか！当面の目標ポイントは留萌市だ。道路の両わきにはときおり雪が残っているものの、路面は乾いており、なかなか快調に距離を稼ぐことができる。日本海を望む留萌に着くころには青空も広がり、やわらかい日差しを浴びて、心は思いのほかホットになった。

留萌からはオロロンラインを日本海に沿って走ることになる。すれ違う車はほとんどなく、単調な道が果てしなく続く。しかし、前方には、全身を雪で覆われた利尻島が幻想的に海からそびえ立ち、飽きることはない。利尻島と日本海に別れを告げて、サロベツ原野に入る。見渡す限りの原野はまだ冬の装いで、花もなく静まり返っていた。原野を抜けてR40に出ると「稚内」の道路標示が目飛び込んだ。「思えば遠くへ来たもんだ」の心境である。



宗谷岬には予定どおりのジャスト12時に到着。岬というイメージから断崖絶壁を想像していたので、国道沿いにいきなり『日本最北端の地』の碑が目に入ったときは驚いたが、青い海の向こうにはまだ雪の残るサハリンも望め、なかなかの絶景だ。天気も快晴に近く、大満足。しかし寒い。気温は5℃。寒中を350kmほと

んど休まず走ってきた身には、「食堂最北端」のラーメンがことのほか身にしみた。それにしても、ラーメンに入っていたホタテのおいしさにはびっくりした。さすが本場はひと味違う！1時間ほど宗谷岬でゆっくりしてから出発。

浜頓別まではオホーツクの沿岸を走ることになる。日本海側と違って風が強いので、さらに寒さがこたえる。このあたりは牧場が多く、サイロと放牧牛といういかにも北海道らし

い風景が続く。浜頓別からはオホーツクに別れを告げ、右に進路を取る。まだ雪深い山の間を縫うようにして音威子府にたどり着いたが、空けどんよりと曇り、まだ15時というのにすでに薄暗い。冷えきった手足をサ店で温め、旭川へ向かう。



あとは130kmの道のりである。再び単調な、もの寂しい林道をひた走り、雲間から夕日が顔をのぞかせた18時、ようやく旭川に到着。予約しておいたビジネスホテルにバイクと荷物を置いて、食事に出る。

居酒屋で、北海道の味覚を堪能した。なかでもジャガイモとホタテが絶品。忘れられない味となり、後日も行く先々でジャガイモとホタテの料理を求め歩くふたりとなってしまった。 <本日の走行 650km>

【5月1日】

朝7時に起床。今日は層雲峡を越え、網走から知床まで走るプランである。層雲峡も寒く、銀河の滝は凍りついている始末。おまけにトンネル出口の路面も凍っていたので、テールが流れて、背筋までヒンヤリしてしまった（今回のツーリングでは転倒ゼロだったが、このときだけは怖かった）。



層雲峡を越えると気温も上がり、ホッとひと息。北見市を過ぎた所で下ライブインに入る。ここで食べた何の変哲もないジャガイモバターが驚くほどのうまさ。思わずふたりで顔を見合わせて、「これはもう笑うしかないね」と言ったほどだった。

網走刑務所前で定番の記念撮影を終え、オホーツク沿いに知床へ急いでいると、妻が「あれって流氷？」と背中をたたいてきた。海を見ると、確かに大小さまざまな真っ白い流氷が浮かんでいる。初めて見る光景に、思わずバイクを止める。まさかこの時期に流氷に出合えるなどとは思ってもよらず、このときばかりは寒さに感謝。このあたりは十数kmの直線道路が続く。運転する側は単調だが、妻は遠く流氷の上にアザラシの姿を見つけたりして、はしゃいでいる。

知床半島に入り、オシンコシンの滝を過ぎると秘境ムードが高まって最果ての地という印象を受ける。ラッキーなことに、知床五湖に向かう途中で野生のキタキツネやエゾシカに出会うことができた。さらにラッキーなことに、展望台で、流氷の海に沈む夕日に出会う。

【5月3日】

いよいよ北海道の最終日だ。ところが外は雨。函館へ行くプランを断念して、オープンしたばかりのサッポロファクトリーで午前中を過ごす。大通り公園をイメージしたという全天候型アトリウムは快適で、都会のオアシスといった印象。札幌ラーメンで温まったところで雨のなか、定番の羊ヶ丘展望台と大倉山シャンツェに寄ってから、洞爺湖方面へ。少々恥ずかしいが、手足にはスーパーの買い物袋を装着していたためなんとか走れたものの、尋常な寒さではない。中山峠にさしかかるとついに雪が降り始め、次第にふぶいてきた。左右に広がるゲレンデで滑っているスキーヤーを横目に、とにかく道路に雪が積もる前に峠を越えなければ、と必死のライティング。緊張の連続で峠を越えたころには体はすっかり冷えきってしまっていた。後席の妻も、寒さで声も出ない様子である。

時間的には余裕があるので、ふもとのガソリンスタンドでしばらく暖をとらせてもらい、洞爺湖には17時に到着した。薄暗くなってきたが雨は上がり、とりあえずひと安心。R37に出て室蘭へ向かう。登別温泉が同じ方面のためかかなり渋滞しており、北海道に来て初めてスリ抜けをするハメになる。

20時、無事に室蘭港着。あっという間の4日間だった。北海道の大地との別れを惜しみながら、東日本フェリーに乗船。See you again! <本日の走行 195km>

【5月4日】

フェリーは17時、新潟県の直江津港に着いた、今日は福井まで走っておかないと、明日の神戸発フェリーに間に合わない。幸い天候は快晴で、なんといっても暖かい。日本海沿岸を快適にひた走るうちに日も暮れてきたが、月明かりに白く映える北アルプスの山々がとても幻想的で、しばしバイクを止める。今年の今ごろはアルペンルートにいたことを思い出し、不思議な気分になりながら、福井まで、今年のツーリングと同じルートをたどる。
<本日の走行 255km>

【5月5日】

福井から琵琶湖の西岸を走り、京都に出る。少し古都をうろつく汗ばむほどの陽気で、北海道とは大違いである。15時には神戸に到着。これまでも何度となく利用してきたおなじみの阪九フェリーに乗り込んで、帰途に就く。 <本日の走行 260km>

【5月6日】

朝6時に新門司港到着。今日は会社に出勤する予定なので、自宅へ急ぐ。北海道の寒さは、もうよき思い出に変わっている。「北海道の素晴らしさは、訪れた者にしかわからない」と友人が言っていた。「一度訪れると必ずまた行きたくなる」とも……。まさに実感である。自分のバイクで走れたことにも満足できたし、なんといっても、心洗われる非日常の大自然の魅力が北海道にはあった。 <本日の走行 70km>

◆データ◆

- ・全走行距離 2,610km (うち北海道 1,695 km / その他 915km)
- ・平均燃費 30km/L
- ・総費用 163,000 円 (うちフェリー代 65,000 円 / ガソリン代 11,000 円 / 宿泊代 35,000 円 / 食費 47,000 円 / 観光その他 5,000 円 / お土産代は別途)